

- WEB** ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しています。
- ▶ 社外取締役のご意見
 - ▶ コーポレートガバナンスの確立: 各種委員会、内部統制システム、内部統制基本方針、リスクマネジメント体制、投資家向けIR活動の充実
 - ▶ コンプライアンスの徹底: 方針・考え方、コンプライアンス研修(行動規範の周知・教育活動)、内部通報・相談制度、グループ経営監査、知的財産権への取り組み、情報セキュリティ個人情報保護、業界団体などへの参画、サプライチェーンにおける人権の尊重、従業員の権利の尊重
 - 【ニチレイらしい社会貢献の推進】▶ 方針と取り組み ▶ 次世代育成支援 ▶ 地域貢献活動およびスポーツ支援 ▶ 環境保護活動 ▶ 寄付活動

コンプライアンスの徹底 コーポレートガバナンスの確立

<http://nichirei.co.jp/report/2014/compliance/001.html>
ホーム > CSRレポート2014 > コンプライアンスの徹底

<http://nichirei.co.jp/report/2014/governance/001.html>
ホーム > CSRレポート2014 > コーポレートガバナンスの確立

○ 行動規範

1999年4月に制定した行動規範は、日本国内に視点を置いた内容であり、グローバル経営を展開する上で、内容そのものがそぐわなくなっていることから、2014年4月にニチレイグループ全体のコーポレートガバナンスの強化および法令遵守と倫理的な事業活動のさらなる徹底を図ることを目的として「国内外統一版の行動規範」を制定しました。主な改訂については、国連グローバル・コンパクトの4分野10原則なども参考にして「人権の尊重」を新たに項目立てして第一優先に位置づけています。また、グローバルコンプライアンスの視点で重要と判断される「インサイダー取引の禁止」「反社会的勢力との関与、取引の禁止」なども盛り込みました。

ニチレイグループの行動規範目次(2014年4月改訂)

1. 人権の尊重・労働に関する法令の遵守
2. 環境保全への取り組み
3. 法令および社内規程の遵守
4. 会社財産の管理と保全
5. 会社財産の私物化の禁止
6. インサイダー取引の禁止
7. 財務情報の信頼性の確保
8. 情報の管理と利用
9. 会社の利益と相反する個人の行為の禁止
10. 公務員、取引先などとの不当な利益の授受の禁止
11. 反社会的勢力との関与、取引の禁止
12. 行動規範の遵守と報告・相談について

○ 業務執行・経営監視

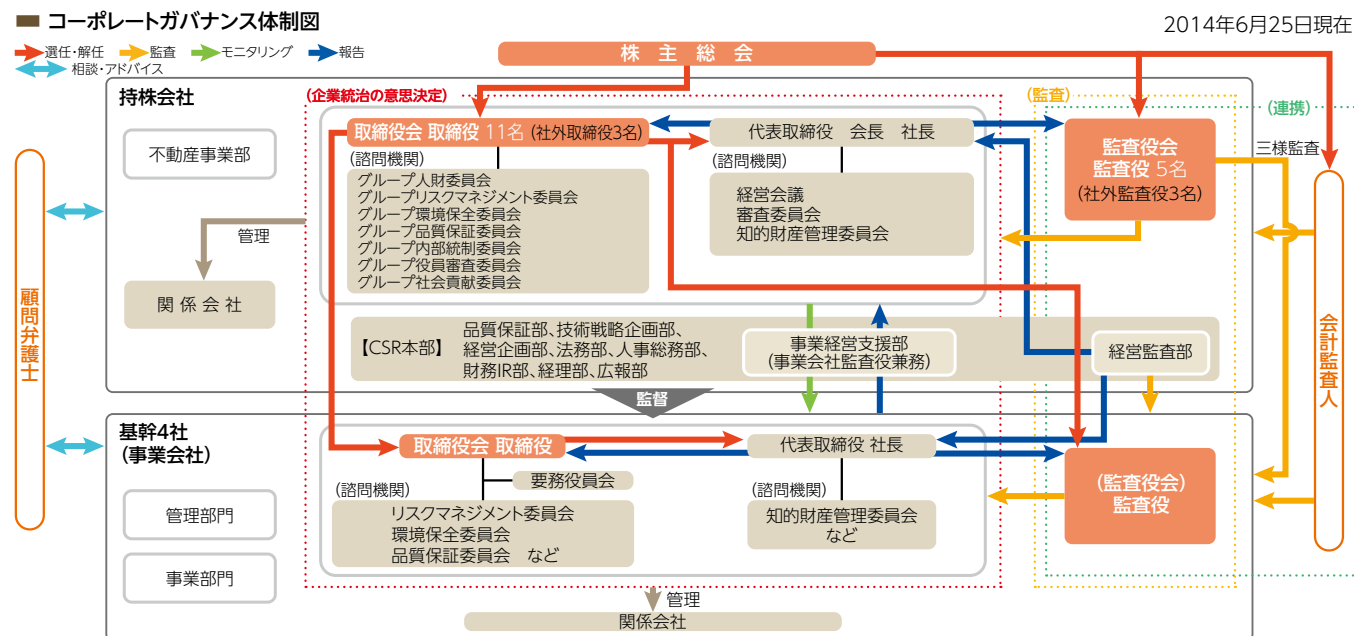
監査役設置会社制度を採用するニチレイでは、経営の透明性向上と経営監督機能の強化を図るため、取締役の任期を1年とし、社外取締役を選任するとともに、毎月1回以上の取締役会を開催しています。

社外取締役は、経営陣からは独立した立場で、経営に関する各種案件を審議するとともに、グループ戦略や業務執行に関するモニタリングを行っています。

監査役は財務・会計に知見を有する人材を選任するとともに、経営陣から独立した立場にある社外監査役を置くほか、両代表取締役が、取締役会とは別に監査役会に対しても定期報告する機会を設けるなど、業務執行に対する監査役の監督機能を充分果たす仕組みを構築しています。

また、各事業会社に大幅な権限委譲を行う一方、事業のモニタリング機能を強化するため、持株会社であるニチレイの組織に事業経営支援部を設置し、各社の非常勤監査役を兼務するとともに、経営進捗状況などを毎月持株会社へ報告するほか、各社に対し経営のサポートも行っています。

さらにコーポレートガバナンスを有効に機能させるため、取締役会の諮問機関として7つの委員会を置くとともに、代表取締役社長の業務執行に資することを目的として「経営会議」「審査委員会」「知的財産管理委員会」を設置しています。



第三者意見

ニチレイグループ「CSRレポート2014」を読んで

「6つの責任」を軸にしたCSR活動

ニチレイグループは、「6つの責任」を軸に、誠実かつ熱心にCSR活動を展開されていると判断します。特に、食品産業として、食の安全性に対する活動に力を入れて取り組んでいることが、報告書全体から伝わってきます。中でも、サプライチェーン全体での品質や安全性の追求は大変重要で、この点について詳しく報告書で開示されていることは高く評価できると思います。特に、原料品質規格書の精査フローやニチレイブランドの付与の方法などを説明されている点は、企業内部のマネジメント体制の説明として、充実しています。今後はこのようなシステムを運営する上での課題と改善などにも踏み込んで情報開示されれば、より一層説得力が増すでしょう。



神戸大学大学院
経営学研究科教授

國部 克彦

環境保全への戦略的な取り組み

ニチレイグループは環境保全にも積極的に取り組んでいます。特に、コールドチェーンに関しては、共同配送を戦略的に進めており、今後の発展と成果が期待できます。地球温暖化防止の2015年度目標に向けた活動では、こちらも戦略的に高い目標を掲げられて活動されており、高く評価することができます。ただし、グループCO₂総排出量についてはほぼ横ばいの状況なので、今後はこのあたりの改善が必要になってくると思います。

CSRパフォーマンスの指標化へ向けて

ニチレイグループのCSR活動は上記に述べましたように、積極的に展開されていますので、今後は個別の活動に関する目標の設定や指標化を進められると、より一層高い評価が得られると思います。たとえば、従業員満足度に関する各種の活動をされていることが報告されていますが、定性的な説明だけでなく、数値情報の開示があれば、実態をもっとはつきり理解することができますし、目標を設定されれば、活動のモチベーションも高まると思います。

双方向のコミュニケーションを

今後の展開の一つの可能性として、さまざまなステークホルダーとの双方向のコミュニケーションをもっと取り入れられてはどうか。外部のステークホルダーがニチレイグループに何を期待しているのかを議論する場を設けることは、CSR活動の促進と評価に重要な効果をもたらすと考えます。今後のさらなる発展を期待しています。

第三者意見を受けて



(株)ニチレイ
取締役執行役員
大内山 俊樹

國部様、率直なご意見をありがとうございました。ご指摘いただいたCSR活動の数値化と目標設定並びにステークホルダーとの双方向のコミュニケーションに関しては、継続して取り組んでいる課題です。今後とも誠実に改善活動を進め、積極的に情報開示してまいります。特にステークホルダーとのコミュニケーションは誰に何を伝えて、どのような効果や評価を得たいのか、明確にしながらい開示情報の質を高めてまいります。「お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。」というニチレイのビジョンの実現のために、CSR活動を通じて、リスクマネジメントと価値創造の両立を目指してまいります。今後ともご指導賜りますよう、お願い申し上げます。